

令和2年 5月27日

佐久市五郎兵衛記念館運営委員会 次第（書面会議）

書面による会議事項は以下のとおりです。

- (1) 令和元年度事業報告について
別添資料の内容をご確認いただき、ご意見等ありましたら、意見書へ
ご記入してください。

- (2) 令和2年度事業計画（案）について
別添資料の内容をご確認いただき、意見書へ賛否についてご記入して
ください。

- (3) その他
その他、ご意見等ありましたら、意見書へご記入ください。

※令和2年6月10日（水）までに返送いただくようお願いいたします。

令和元年度 佐久市五郎兵衛記念館 事業報告

1 主要な事業について

(1) 春季企画展「協働・互恵に生きた佐久の祖先達」—社会を支えた尊い作業—

ア 期 日 4月20日(土)から5月5日(日)

イ 場 所 記念館 研修室

ウ 内 容 現代と同じように近世佐久の祖先達も社会発展のため「国役」の負担等、公のために尽してきました。

その代表的なものとして「千曲川往還橋組合・大池普請・相浜用水掛樋普請」の記録を収蔵古文書と、ジオラマ製作により紹介し協働・互恵に生きた佐久の祖先たちの尊い足跡を明らかにしました。

④期間中入館者 293名

(2) 年度末展示「時代の先端技術に挑んだ佐久の先人達」

ア 期 日 3月20日(金)から3月29日(日)

イ 場 所 記念館 研修室

ウ 内 容 日本の本格水道事業の始まりは明治20年の横浜、佐久平では昭和30年代の供用開始です。驚くことに記念館文書に五郎兵衛用水を利用し、明治30年に県内に先駆けて下原地域に地底深く本格的な水道施設が私設公営で起工されていた記録が残されておりその紹介を予定。

エ 期間中入館者 コロナ感染防止のため中止

(3) 古文書を読む会

ア 期 日 毎月第2週の木曜日 午後7時30分～9時

イ 場 所 記念館 研修室

ウ 内 容 記念館の社会貢献活動として歴史の宝庫である記念館収蔵古文書を用い、読解力養成講座をシリーズで開催した。使用教材の一例をあげれば国内有数の石工集団伊那高遠石工と佐久の人々との心温まる交流について学ぶことができた。

エ 講 師 元佐久市五郎兵衛記念館長 春原 邦江氏

オ 年間受講者合計 228名

(4) 古文書調査報告会

ア 期 日 9月8日(日) 午前10時～12時

イ 場 所 五郎兵衛記念館 研修室

ウ 内 容 前年度実施した古文書翻刻事業の成果『古文書調査報告書第12集』の内容について、担当した職員からその時代と翻刻文書に残された

用水の維持管理の実際について詳しく分かり易く報告した。

エ 当日聴講者数 16名

(5) 古文書調査報告書の発行

- ア タイトル「佐久市五郎兵衛記念館古文書調査報告書 第13集」
- イ 内容 史料紹介 五郎兵衛用水を利用した近代的水道施設の供用について
史料紹介 古文書目録第二集 H 用水・普請について
史料紹介 用水の維持管理に係る費用について
- ウ 規格・部数 B5版 50頁 300部

(6) 条例に規定する史資料に関する調査研究の推進について

ア 学習院大学資料館

学習院大学等からの寄託古文書適正管理のため隔年で実施している古文書収蔵庫燻蒸作業、また年度計画で進めている収蔵古文書の翻刻作業の進捗状況について、元学習院大学資料館長の高埜利彦同大名誉教授(日本学術会議会員、日本アーカイブズ学会初代会長)及び学習院大学資料館学芸員に逐一報告しその確認がお願いできた。

イ 一般財団法人日本水土総合研究所、

五郎兵衛用水の世界かんがい施設遺産登録を契機に、同研究所の支援を受けて農林水産省、国際協力機構、国際農林水産業研究センター、農業農村工学会が協力編集する情報誌「ARDEC (アルデック)」に五郎兵衛用水の開発を大きく特集記事にすることができた。

ウ 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

矢嶋原の開発で解明が欠かせない虚空蔵信仰、社口祭祀について、民俗学研究所の国際的権威者の佐野賢治教授と親しく交流ができ貴重な知見が得られた。

エ 風土工学研究所及び環境防災研究所

武田信玄が土木技術の範としたという中国四川省都江堰の開発と、その後の同堰の維持管理の研究成果が記念館に同研究所から貴重参考図書と共に寄託が受けられた。

オ 渋澤栄一記念館・渋澤史料館

当館収蔵文書から依田稼堂の恩師木内芳軒と渋沢兄弟、また渋澤栄一記念館・渋澤史料館での市川五郎兵衛の末孫、竹井澹如、折茂健吾について残された記録から足跡が辿れ今後ホームページでの公開を計画している。

カ 中山道 69 次資料館

中山道の歴史解明推進のため歴史資料の共同利用を進めた。

キ 由利本庄市文化財保護団体連合会

佐久市と関わりの深い秋田県旧矢島町の合併した由利本庄市と、相互の矢嶋

開発について研究を深めるため、文献資料の交換と現地調査のため仲川同会会長が来館した。

ク 上田市真田町郷土研究会

佐久の 4 大用水開発者と真田氏との関係について記念館収蔵文書から知られていない情報を提供することができた。

キ 箕輪城まつり奉賛会

五郎兵衛用水の開発とその後の維持管理大きな役割を果たしてきた柳澤氏と佐久の国衆、大井氏、伴野氏の動向について、奉賛会が収集してきた記録の提供が受けられた。

(7) 広報・宣伝・情報発信

ア 世界かんがい施設遺産登録を機会に農林水産省からの広報として五郎兵衛用水が全国へ紹介されるようになった。

イ 令和元年度は浅科地区が佐久市観光協会の重点的観光キャンペーン地区であったので観光雑誌、ポスター等に五郎兵衛用水を大きく取り上げられた。

ウ 妙香院を兼務する信州善光寺薬王院住職の協力を受け、五郎兵衛と善光寺の関係が松代真田氏を通じ深いこと、また末孫が官営富岡製糸場の開業に尽力していることから、信州善光寺、五郎兵衛用水、官営富岡製糸場の三者連携観光ネットワークと善光寺宿坊での五郎兵衛米利用を進めたがコロナ禍で計画が中断となってしまった。

エ 五郎兵衛用水土地改良区と小学校行事用水見学会の内容充実に努めた結果、見学会参加小学校児童に貴重な学習の機会が提供できた。

台風 19 号で五郎兵衛用水施設罹災の際には長和小児童会での義援金募集活動へとつながった。

オ 「五郎兵エ米のおかゆ」開発のさくら福祉会、佐久歴史の道案内人の会などと協力して五郎兵衛用水の発信に務めた。

キ 東京芸術大学の協力により五郎兵衛記念館のロゴマークのデザインができた。

令和2年度 佐久市五郎兵衛記念館 事業計画 (案)

1 主要な事業について

(1) 収蔵古文書の適正管理について

条例5条に規定する収蔵古文書の適正管理について昨年度に引き続き学習院大学資料館と佐久市との相互交流を進めて行く。

ちなみに昨年度佐久市から2回学習院大学資料館へ、また学習院大学資料館からも学芸員が専門的知見を伝えるため来館が得られている。

(2) 史資料に関する講演会の開催について

条例5条に規定する史資料に関する講演会、講習会、及び研究会について次のとおり開催します。

1) 企画展示会「協働・互恵に生きた佐久の先人達」

本州の中央部佐久平に生きた近世佐久の祖先が負担した「国役」「郡役」はその佐久平が位置する治政学的な特色から他地域とは大きく乖離し大変な困難とその足跡の大きさが特色です。

令和2年春期企画展として協働・互恵に生きた佐久の祖先たちを収蔵古文書から紹介します。

期 日 4月20日(土)から5月5日(日)

(ア) 場 所 五郎兵衛記念館 会議室

(イ) 内 容 「館収蔵絵図が語る治水・地域活性化に尽した祖先たち」

(ウ)

2) 企画展示会「渋沢栄一を守り育てた信州佐久平」(仮称)

令和3年2月からのNHK大河ドラマの主人公は渋沢栄一です。またドラマの題名「青天を衝く」は市内朧水にある栄一作漢詩「内山峡詩」の一節です。栄一自伝にある通り彼の命を救い、学問を授けた佐久の先人の歴史を市民に紹介します。

期 日 3月20日(土)から3月28日(日)

(エ) 場 所 五郎兵衛記念館 会議室

(オ) 内 容 渋沢栄一・尾高惇忠と佐久の先人、合わせて用水開発者市川五郎兵衛家の人々との深いつながりについて

3) 古文書を読む会

記念館の社会貢献活動として歴史の宝庫である古文書の読解力養成講座を昨年に引き続き運営します。教材は市内に残された身近な古文書を活用することにより生きいきとした地域の祖先たちのありし日の姿を追います。

① 期 日 毎月第木曜日 午後7時30分～9時

② 場 所 五郎兵衛記念館 会議室

- ① 講師 元佐久市五郎兵衛記念館長 春原邦江氏

4) 古文書調査報告会

収蔵古文書調査の成果として刊行している古文書調査報告書の内容について担当した職員からその翻刻文書について詳しく分かり易く報告します。の

- ① 期 日 9月9日(日) 午前10時～12時
② 場 所 五郎兵衛記念館 会議室

5) 古文書調査報告書の発行

- ② タイトル 「佐久市五郎兵衛記念館古文書調査報告書 第13集」
③ 内 容 五郎兵衛記念館収蔵文書及び史料紹介他。
③ 規格・部数 B5版50頁 300部

五か年計画で取り組んできた館収蔵古文書の内、用水の隧道、水路など用水施設日々行っている古文書調査、整理その翻刻作業の成果について刊行します。

(8) 条例に規定する史資料に関する調査研究の推進について

① 学習院大学資料館

昨年度に引き続き職員の相互訪問により寄託文書の万全に保管と、学術的調査研究の交流を進めて行く。

② 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

比較民俗学研究の国際的権威者の佐野賢治教授に協力し、佐野ゼミの海外からの留学生の研修、また民具、土俗信仰等知見を共有して行く。

④ 風土工学研究所及び環境防災研究所

全容が解明していない五郎兵衛の用水開発、また土木技術の国内伝播について全国的展開をしている風土工学研究所の支援を受けて解明を進める。

⑤ 渋澤栄一記念館・渋澤史料館

館収蔵文書から依田稼堂の恩師木内芳軒と渋沢兄弟、市川五郎兵衛家の竹井澹如、折茂健吾について引き続き情報を共有して行く。

(9) 広報・宣伝・情報発信

- ① 世界かんがい施設遺産登録を広く社会へ知らせて行く。
② 佐久市観光協会へ協力し、館が収蔵する地域の貴重な歴史を公開して行く。
① 春日温泉、市内道の駅と連携し利用客へ郷土史を発信していく。
② 小学校行事の見学会の内容充実を努める。
③ 関係行政と緊密な関係を深める。
④ 地産地消「五郎兵エ米のおかゆ」などの開発と情報発信に努める。